

自己評価および外部評価結果

2ユニット目事業所記入欄

評価機関記入欄

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員室に理念を掲げ職員間で周知し利用者様一人ひとりに合わせたケアを行えるよう支援している。		”あなたを支えます”の理念をベースにA・B棟独自の目標を作っている。職員は、利用者を自分の両親や身内そして自分自身だったらという思いで支援しており、ケアの中に理念を生かすよう実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園交流会を継続して行っている。また、夕涼み会を開催する際には近隣住民の方々にチラシを配布し招待している。推進会メンバーを通じて地域の情報も頂くことができています。		食材の調達には地域の商店を利用し、地域の祭りでは神輿を園庭に招致するなど地域の一員として交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や利用申し込みに来られた方々にホームを案内する際に認知症についての理解ができるよう説明をしている。また、積極的に実習も受け入れており、双方が発展できるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や行事・研修の報告を行っているが、メンバーから活発に意見や助言等をいただくことができています。それらについては、朝礼や会議・議事録を通じてサービス向上に向け取り組んでいる。		会議は地域の市議・学識者・民生委員等多彩なメンバーの参加を得ている。様々な意見や提案、情報を受け運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会への参加をして頂いている。ホームの状況を報告するとともに他事業所の良い点等を紹介して頂いている。また、認定調査等の必要に応じて協力している。		介護保険制度改正に伴い、身体拘束等についての相談助言をもらうなど、日常的に相談しやすい良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会、外部研修を通じて全職員が学べるよう機会を設けている。身体拘束の種類について知ることによってその意味を理解しケアに臨んでいる。		身体拘束の弊害については勉強会で学び理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。今年、拘束廃止委員会を発足し、今後3か月を目安に開催する予定となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人主催による虐待防止研修の予定がある。行き過ぎた介護、食事の強要等も虐待になる恐れがあることを周知し、入浴時に全身状態を観察し痣ができていないか、適切な身体介護ができていないかを確認し合っている。			

認知症対応型共同生活介護用

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人利用者1名手続き中。また、問い合わせ先や方法について助言を行い、知識を深められるよう職員室には制度についての書籍を置いて学べる機会を持てるようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項や料金についての説明を行った上で契約を交わしている。また、利用時にどんな些細なことであっても疑問点や不安感を覚えた際には、伝えて欲しい旨を話している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会や家族懇談会の際に出席して頂き、意見を表出できる機会を設けている。また、面会の際に何でも話しやすい関係作りを大切にしている。		家族懇親会や面会時等では、意見を言い易い雰囲気づくりに留意している。遠慮される心情を察し、クレームは大事な助言という姿勢でのぞんでいる	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回程度、ユニット会議をそれぞれの棟毎に開催し、業務についての検討や意見を発言できるようにしている。		全体会議やユニット会議の場を含め、日頃から意見や提案は気兼ねなく言い合える場になっている。ユニット会議ノートが用意されており、気づいた時には記入できるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人手が不足しており介護職員一人当たりの負担が多く掛かっているため精神・身体面での疲労感が残る状態である。それでも利用者様や職員同士でコミュニケーションを図り人と接する温かさ・楽しさを感じながら働いている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人・中堅職員それぞれの階層別での専門研修、管理者研修、法人内外での研修に参加する機会がある。研修後は報告書の提出や勉強の機会を設け他の職員にも周知している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外での行事や研修へ参加をし、グループワーク等を通じて交流する機会がある。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面会で生活歴を把握しながら、利用者様の気がかりな事や困っている事などを傾聴し安心感を持っていただける雰囲気作りを心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様や家族が心配事や不安を感じている事を話しやすい雰囲気を作り聞き取る。また、思いを受け留めながら人間関係を築けていけるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を聴き状態を把握し調査の段階でホームの生活が困難と思われる場合他のサービスを紹介している。「その時」の必要な支援に焦点を当てながら短期目標を設定し支援している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の得意とする分野や知恵を活かして頂きながら役立つ喜びを感じて頂ける様支援している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や電話連絡の際に日常の状態報告を行い情報共有しながら家族の要望を含め相談しながら本人にとっての得策を講じていけるようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室やスーパー等へ外出する等の個別支援を行っている。親戚や友人や知人の面会の機会を歓迎し家族との外出の支援もしている。	本人家族から得意とする分野や趣味等の情報を聞き、支援に生かしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの状態・性格等を把握し、席や作業の配置を行って良好な関係を保てるようにしている。また、状況に応じて職員が間に入り、共通の趣味等で繋ぎ楽しみを共有出来るよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同建物内の有料老人ホームへの転居が多い為、本人や家族との関係性が把握でき関係性を維持しやすく心配事などの相談を受けた場合支援を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居以前の生活を把握し利用者とは何でも話せる環境づくりを行い思いや意見を汲み取り困難な方は、職員間で話し合いながら本人の希望に添えるように努めている。		日々かわりの中で利用者一人ひとりの思いや意向を把握している。音楽を好きな利用者にはCDを流すと笑顔になる事や、お腹をポンポンと叩くと排せつのサインである事など、表情や仕草で本人の思いを汲み取る支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から情報提供して頂きつつ、利用者本人から好きな物や得意な事を会話や日常の様子で見極めサービスに繋げられるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・日誌に状態を記録し現状把握に努め、日常動作の変化やそれぞれの出来る事を知ることにより気づいた点を職員間で報告し合い共有しケアに活用している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題に対して本人や家族の意向を確認し、ミーティングの際に職員間での意見交換を行い、どのようなケアをしたらいいのかが最善の方法を模索しながら、担当者会議で報告し介護計画を作成している。		個別の介護記録や職員の意見を参考にし、現状に即した介護計画を作成している。介護計画書の情報は全職員が共有し利用者本位の支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・健康チェック・申し送りノートを活用し情報確認を行っている。職員間での状態把握することで改善出来る面や今の変化に焦点をあて対応出来るよう活化している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診が難しい方は訪問歯科を利用。福祉用具業者に靴のサイズを合わせてもらい購入したり、介護福祉タクシー利用を検討したりしその時々必要に応じて支援を行っている。			

認知症対応型共同生活介護用

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店や美容院・花屋を利用して頂き顔見知りになっている。また幼稚園交流会が定期的の行事として入居者の楽しみの一つとなっている。警察・消防団等の機関とも連絡を取り利用者の安全確保に努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に専門医や必要な診療科目の確認を行っている。協力医療機関の選択肢も説明させて頂き、馴染みの医師による継続的な医療も含め意向を確認し支援を行っている。	本人の、今までのかかりつけ医へ家族付き添いの下受診している。状態に変化がある時は、介護サマリ記録等を持参してもらい、適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来訪。日常の状態や変化・異常を介護職が把握し報告。緊急時には電話連絡を行い指示を仰ぎ、医療に繋げることが出来るよう関係を築いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、連携シートを用いながら情報交換を行っている。また、定期的の様子を伺い状態確認や精神面でのケアを心掛け退院後のホームでのあり方についても話し合い受け入れ態勢を整えられるよう努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期の意向を確認させて頂いている。また、早い段階から家族との話し合いを持ち施設で出来る事を説明し終焉をどのように迎えたいのかを希望を聴き取り反映させている。	指針をもとに急変時等の意向確認書や看取り介護の同意書で確認し、本人、家族の思いを大切に支援する方針となっている。職員はターミナルケア研修に参加し、勉強会を行い、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しており、勉強会等でも学ぶ機会を設けている。職員間で連携を取りながら迅速かつ冷静に対応しながら医療機関へと繋げている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中及び夜間想定での避難訓練を行っている。地元消防団にも協力を頂きながら一緒に誘導訓練等を行っている。消火器を用いた訓練の際には、ご利用者様も行って頂いている。	運営推進会議において、防災について度々話し合いが行われている。消防団の方が協力的で様々なアドバイスがある。隣接する山については、行政・山の所有者に対し今後の対応について相談している。	隣接する山からの危険は、行政からハザードマップの危険箇所から外れているとの報告があっているが、今後も想定外の有事を視野に入れ安全対策を講じることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	経験を積んでこられた人生の先輩として尊敬し、敬意を持った態度で接し、丁寧語を使うよう心掛けている。状況に応じて地元の言葉も織り交ぜながら会話をするようにしている。		自分の両親や身内そして自分自身に置き換え、言葉かけや対応をしている。特に排せつ誘導時は誇りやプライドを損ねるような対応や言葉かけがないよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の生活の中で何気ない会話を通じて本人の思いや希望を聞き、言葉に出来ない方は声掛けながら意図することを汲み取りながら自己決定が出来るよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを守りつつ居室に引籠もることがないように、何をしたいか耳を傾け本人の気持ち・都合を優先することを心掛けながら支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用し散髪や本人馴染みの美容室で髪染やパーマ等個別支援を行う。また、外出時には身だしなみを整え場合により余所行き服を身につけ、化粧や口紅をされる方の支援も行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むき・ネギ切りや茶詰め、稲荷寿司作り等関わりながら作業をして頂いている。また、入居者自ら台拭き等をしており家族の一員として携わっている。		野菜の皮むき、味見などできる範囲で参加を促している。料理も握りずし、魚の日干しなどとリクエストがある。職員はさりげない介助を行いながら利用者と同じ食事で食卓を囲み、楽しい食事となるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1ヶ月の献立を作っている。季節に合わせて変更しながら入居者に合わせて栄養バランスを考えている。摂取量をチェック表に記入し、水分も品を替え声掛け飲むことができる様工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをし歯磨きを行っている。週1~2回消毒液に浸けている。難しい方は介助を行い口腔内を衛生的に保てるよう支援している。			

認知症対応型共同生活介護用

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、個人個人の排泄間隔を把握しながら定期的にトイレ誘導しトイレで排泄が済ませられるよう支援し生きる自信に繋がるよう努めている。	排せつチェック表を活用し、排せつパターンを把握してトイレへ誘導している。夜間においても声掛けをしてトイレへ誘導し自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やラジオ体操や適度な運動を勧めながら排泄チェックを行っている。また排便の調整は主治医や看護師に相談しながら下剤の処方をして頂いている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週5日入浴日があり週に2回以上入られるよう施行。また、本人の健康状態や希望に配慮し別日に変更したり足浴や清拭を行ったりするなどの柔軟に対応している。	入浴時間が決められているが希望があれば清拭・足浴等に対応している。入浴までに至っていないが出来る限り入浴が楽しいものとなるように支援している。	一人でも希望に沿う入浴が可能になるよう、週5日入浴日の活用と職員ローテーションの再確認や工夫を期待したい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのペースで休息や安眠できるように居室やフロアなどの空調管理を行いリネン類の清潔保持に努めている。休みたい時はすぐ対応出来るよう心掛けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報をファイルに入れ職員が把握出来るよう台所に置き服薬管理を行っている。また、身体・心身の状態変化を経過記録に記載し職員間で共有しながら医療機関に情報提供し服薬調整に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅での環境を聴き取り、居室には新聞の配達や居室に植物を置いたり家族に嗜好品を依頼したりしている。また本人の出来る事を出来る範囲でして貰い役割を持ってもらえるよう努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事計画を立て花見・七夕見学・ドライブ等、季節を感じて頂けるよう気分転換に繋げている。家族対応での病院受診の際や誕生祝いとして外食を行う際も支援している。	玄関先の花を見に行ったり天候の良い日にはホームの庭や周辺の散歩を支援している。又、季節折々のドライブも支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度の金額を職員室で管理し出納帳に記載。財布を保持したいとの要望があれば家族と相談の上、記録記載を行い本人の不安に繋がらないよう持って頂き、外出時に買い物支援を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは職員を介し居室で話して頂きプライバシーの保護に努めている。手紙でのお礼のお便りを家族に許可を頂き、本人が書ける所を書いて頂きながら関係を繋げられるよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日2回掃除を行い、その時々で不快に感じる環境を排除できるよう努めている。利用者の立場で温度・音の強弱や明暗等を調節し快適に過ごせる空間を整えている。	共用空間は掃除が行き届いており、清潔に保たれている。随所にソファや椅子が置かれくつろげる様に工夫がしてある。しかし、表皮の傷みや肘杵が露出しているものもある。	共用空間はソファが占める割合が多く、利用者にとってはゆったりくつろげる場となっている。より安心して過ごせるように備品の管理が適正に行われる事を期待したい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外にもTV前にソファや椅子を置き、共有スペースでお喋りを楽しんだり、離れた空間にも独りでくつろいだりできる場所を配置し思い思いの時間の過ごし方が出来るよう支援している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や寝具をもって来て頂き、壁には家族の写真や交流のある幼稚園児手づくりの飾り等を思い思いに飾られ居心地の良い空間に作りを行っている。	使い慣れた家具や自分の作品などが飾られている。テレビや位牌などが持ち込まれ、自分らしい居室となるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前の札を表示をしているが、場所の分からない方には目印をつけ対応。歩行時不安定な方には歩行器を勧めている。また、転倒防止の為、居室には市販の赤外線センサーを設置している。			